

Dokkyo Medical University Koshigaya Hospital



獨協医科大学

越谷病院だより

2011.9
20号



● **主な内容** ●

平成23年度広域医療搬送訓練に参加	2
外来リフォーム工事に伴う診察室の変更について／医療被ばく低減施設認定を取得	3
節電行動計画について	4
病院への手紙	4~5
青葉まつり報告(東日本大震災復興支援チャリティーイベント)	6
東日本大震災に伴う被災者支援活動について	6

平成 23 年度広域医療搬送訓練に参加

当院は9月1日「防災の日」に行われた平成23年度総合防災訓練における広域医療搬送訓練に参加しました。

今回の訓練は9月1日午前8時に首都直下地震（東京都北部を震源とするマグニチュード7.3）が発生し、震度6強の埼玉県川口市が主な被災地との想定でした。

当院の役割としては、震災により通常診療が困難になり、外来及び入院中の一部重症患者を関係機関（消防、DMAT、ドクターヘリ）と連携し、航空自衛隊入間基地のSCUへ搬送するというもので、同時にEMIS（広域災害救急医療情報システム）により、被災直後における病院の被害状況や受入れ患者数等の緊急情報の入力を行いました。この訓練にあたっては当院のDMAT隊員のほか、鳥取県や茨城県のDMAT隊員、埼玉県の職員も参加されました。



先の東日本大震災時においてそうであったように、被災地では多数の負傷者が発生し、医療施設の被災による機能低下や医療従事者の負傷などにより、十分な医療を確保できないことが予想されます。この広域医療搬送とは、重傷者の救命と被災地内医療の負担軽減を図るために、重傷患者搬送に従事するDMATを被災地外から派遣し、重傷患者を被災地外の病院等へ搬送し救命するという活動です。

今回の訓練を通じて、大規模災害時には院内の連携はもちろんのこと、他の医療機関や消防・行政・自衛隊など他の機関との協力が大変重要だということ



改めて実感しました。当院では引き続き災害対応についての訓練を積み重ね、災害時に十分な対応ができるように努めてまいりたいと考えております。

外来リフォーム工事に伴う診察室の変更について

本年1月から実施している診療科外来のリフォーム工事に伴い、下記のとおり仮設診察室での診療を行っております。患者様には迷惑をお掛けしますがご理解とご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

8月8日(月)から9月30日(金)まで

- ◆ 第一外科
 - ◆ 第二外科
 - ◆ 乳腺センター
- 中央棟2階 仮設診察室 (赤色の線に沿ってお進みください)
- ◆ 心臓血管外科・呼吸器外科
- 中央棟1階 仮設診察室 (青色の線に沿ってお進みください)
- * 脳神経外科についても、6月22日から中央棟1階仮設診察室で診療を行っております。

なお、これまで仮設診察室で診療を行っていた「こころの診療科」及び「子どものこころ診療センター」は、8月6日(土)から外来棟1階に移転しておりますのでご注意願ひます。

* 場所の詳細については、誘導案内表示が院内にありますのでそちらをご覧ください。

「医療被ばく低減施設認定」を取得

放射線部

当院は本年3月1日付けで(社)日本放射線技師会が行う「医療被ばく低減施設」に認定されました。

この事業は、医療施設における被ばく低減のきっかけを与えることや、患者様に医療被ばく低減施設という新たな病院選択肢を与えることを主な目的としており、当院放射線部では数年前より認定取得に向け、患者様の医療被ばく線量の把握、X線装置の適正な管理、放射線防護の最適化をはかってまいりました。

この結果、適正な体制の整備、運営が能動的に行われていること、さらに患者様の医療被ばくに関する不安を取り除くため相談室を設置し、放射線管理士が中心となり相談を受けていることなどが高く評価され、全国で24番目、埼玉県で2番目の認定に至りました。

当院では放射線利用の三原則である「行為の正当化」「防護の最適化」「個人線量の限度」のもと、安心して放射線検査・治療を受けていただくため引き続き努力するとともに、更なる医療被ばく低減にも取り組んでいきたいと考えています。

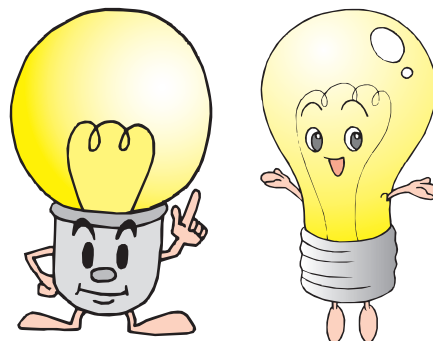


節電行動計画について

東日本大震災における電力不足に対応するため、当院では節電行動計画を定め、患者様に支障がない範囲で節電に取り組んでおります。

照明の間引き、空調の適切な温度設定、省エネ機器の導入、クールビズ(服装の軽装化)などを実施しています。

ご来院いただく皆様には何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。



病院への手紙にお答えいたします

～当院の各部署に設置してあります、ご意見箱に寄せられる患者さまのご意見・ご要望等「病院への手紙」に対する回答～

* 節電について

〈外来患者 女性49歳〉

震災後、貴院も節電に協力している姿勢が伺えます。ただ足元がうす暗く(特に曇りの日)、2階の消化器内科や病棟に行くところで、反対側から来た方とぶつかりそうになりました。もう少し明るくしてくれると助かります。逆に総合受付は午後に来院する方も減ると思われそうですので、灯りを落としてもよいのでは？

お答えいたします

ご意見をいただいた件につきましては、外来リフォーム工事に伴い、本年1月から6月下旬までの期間、消化器内科が仮設診察室(中央棟2階)で診療を行っていた時のことと思われそうですが、患者さまには大変ご不便をお掛けしました。

ご指摘のとおり、当院では東日本大震災に伴う電力不足に対応するため、行動計画を定め節電に取り組んでおりますが、今回のご指摘も参考にさせていただき、極力患者さまに支障のないよう対応していきたいと思っております。

* トイレについて

〈52歳男性 他 同様意見1名〉

トイレがとても不潔で汚い、もっと頻繁に掃除して欲しい。

お答えいたします

当院内におけるトイレについては、ハウスキーパーにより毎日清掃しておりますが、特に汚れがひどい等気づきの点がありましたら、都度清掃もしておりますので、お近くの事務職員までお申し出下さい。利用なさる方々がご不快な思いをなさらぬように清掃するよう指導いたします。

*** 言語聴覚士を増やしてほしい**

〈41歳女性 他 同様意見多数〉

- ・月1回、長男が子どものころ診療センターでSST(ソーシャルスキルトレーニング)を受けています。発達障害の治療に関して、継続的に診てもらえる施設が少ない中、唯一頼れる場所として貴院に通っています。ST(言語聴覚士)の方の多忙ぶりを拝見し、トレーニングの充実を考えるとSTの増員を是非お願いしたいと思います。STが増員されることにより、生活することが困難な子供の受入れが進み、長期的なトレーニングが可能となるよう願っています。
- ・STの増員をお願いします。多くの方が必要としているのに先生の数少なすぎます。先生の数が増えればリハビリの回数が増え、能力の向上につながります、ぜひご検討下さい。

お答えいたします

当院における教職員の人員配置については、獨協医科大学全体として毎年行っている人員計画により、各部署における種々の状況を総合的に勘案し決定しております。

今回いただいたご要望についても、今後の参考にさせていただきたいと考えております。

*** 南越谷阿波踊り(獨医連)について**

〈65歳 女性〉

8月20日の阿波踊り始めて見ました。見るまでは何をそんなに盛り上がっているのかわかりませんでした。私は職員の方の阿波踊りが行われる1階まで一人ではいけないので、見ることを諦めていたところ、優しい看護師の人たちのお陰で見に行くことができました、先生方や看護師の皆さんは普通の優しさとはまた違い、とても楽しそうで、ハマっているというよりはむしろのめり込んでる様子が伺えてとても羨ましかったです。そして親近感も沸き、元気をもらいました。ありがとうございました。。。。そしてお疲れ様でした。

ありがとうございます

獨医連の阿波踊りをご覧になられた入院患者様やご家族の方々に喜んでいただき、またこのようなご意見をいただき本当に嬉しく思います。

「獨医連」の存在意義は、教職員に数少ない親睦の場を提供し、一緒に汗を流し、練習を共にすることで「和」が生まれ、その延長上における業務の円滑化も期待しております。

今後も皆様に楽しんでいただけるような催しを病院全体で考えていきたいと思っております。

病院への手紙について

患者さまから寄せられる「病院への手紙」につきましては、週1回収し、病院長をはじめとする当院幹部役職者が目を通した上で、該当部署に回答及び今後の対応などを報告させています。

その中で改善できるものは早急に改善し、反省すべきご指摘は謙虚に反省し、検討を要するものは少しでも患者さまのご要望にお応えできるよう日々努力しております。

この「病院への手紙」については、性格上そのほとんどが匿名であることから、該当部署から直接ご本人に回答することはできませんが、皆様からのご意見を当院の貴重な財産として真摯に受け止め、より良い病院づくりの一助にしたいと考えております。

なお、皆様からのご意見、そしてその回答については、この病院だよりを通じて一部ご紹介させていただきますが、それ以外のものにつきましても、現状において可能な限り然るべき対応を行っていることをご理解賜りたいと思います。

青葉まつり報告(東日本大震災復興支援イベント)

去る5月27・28日の2日間に亘り東日本大震災復興支援を目的として開催した「青葉まつり」については、生憎の雨模様にも関わらず、多くの方々にご参加いただき盛況のうちに終了いたしました。

今回の「青葉まつり」は、先の震災に対する復興支援チャリティーイベントとして、収益のすべてを義援金として寄付させていただきたくこととし、同時に参加者から義援金の募集も行ったところ、以下のとおりとなりました。

多くの皆様の善意、誠にありがとうございました。

◆ 義 援 金	58,461円
◆ 青葉まつり収益	323,748円
合 計	382,209円



皆様からお預かりした義援金並びに収益(382,209円)につきましては、埼玉新聞社を通じて寄付させていただきました。

改めまして、皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

東日本大震災に伴う 被災者支援活動について(ご報告)

(旧騎西高等学校における健康診断体制の確保について)

当院では東日本大震災に伴い、埼玉県加須市の旧騎西高等学校に避難している福島県双葉町住民の健康管理や子どもの心のケアなどについて、加須市保健所からの要請を受け、これまで下記のとおり避難所に派遣し、被災者の健康を守り重症化を防ぐための包括的健康支援として健康診断を行っております。

この場所における避難生活は長期に亘る見通しであることから、当院といたしましては、今後も継続して実施していく予定です。

【これまでの派遣状況】

- ① 5月18日(水) : 医師2名、看護師5名、ボランティア5名
- ② 5月25日(水) : 医師2名、看護師3名、ボランティア5名
- ③ 6月 1日(水) : 医師1名、看護師3名、ボランティア7名
- ④ 6月 8日(水) : 医師1名、看護師4名、ボランティア5名
- ⑤ 6月15日(水) : 医師1名、看護師3名、ボランティア4名
- ⑥ 6月22日(水) : 医師1名、看護師4名、臨床検査技師1名、ボランティア4名
- ⑦ 6月29日(水) : 医師1名、看護師2名、臨床検査技師1名、ボランティア6名
- ⑧ 7月 6日(水) : 医師1名、看護師2名、ボランティア5名
- ⑨ 7月10日(日) : 医師3名、看護師3名
- ⑩ 7月13日(水) : 医師1名、看護師3名、ボランティア1名
- ⑪ 7月20日(水) : 看護師3名、ボランティア2名
- ⑫ 8月 3日(水) : 看護師4名
- ⑬ 8月17日(水) : 看護師3名